

豊田市交通安全市民会議
令和7年度

交通安全

作品集

豊田市議会
議長賞

手嶌 華菜
(前林中1年)



豊田警察署長賞
林 蒼真
(中山小2年)



豊田市長賞
吉田 朝陽
(梅坪小1年)



はじめに

豊田市交通安全市民会議では、交通安全作文・手紙、交通安全ポスター、交通安全標語を募集しています。作品の制作を通して、作者自身の交通安全意識を高めていただくとともに、作品を公開するなどにより、多くの方へ交通事故撲滅の願いを届けたいと考えています。

今年もたくさんの交通安全作品の応募をいただきました。この「交通安全作品集」に掲載した作品は、交通事故の恐ろしさ、悲しさ、心構えなどをつづった作文、工夫されたデザインや力強くあることは繊細に描かれたポスター、そして簡潔でわかりやすく交通安全を訴えた標語で、いずれも厳正な審査を経て選ばれた、すばらしい作品ばかりです。この「交通安全作品集」を多くの方にご覧いただき、皆様の交通安全意識の高揚と交通事故防止にお役立ていただければと思います。最後に、交通安全作文・手紙、交通安全ポスター、交通安全標語を応募いただきました多くの皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

豊田市交通安全市民会議

会長 高村 伸一

目 次

交通安全作文・手紙の部

《最優秀作品》 5点 1ページ

① 豊田市長賞	前田 智輝	浄水中学校	3年
② 豊田市議会議長賞	山内 結菜	猿投農林高等学校	2年
③ 豊田警察署長賞	藪下 ひらり	猿投農林高等学校	1年
④ 豊田市教育委員会賞	尾村 雪華	浄水北小学校	5年
⑤ 豊田市交通安全市民会議会長賞	土井 慶祐	浄水北小学校	6年

交通安全標語の部

《最優秀作品》 1点 6ページ

① 豊田市交通安全市民会議会長賞	北村 奏多	美山小学校	1年
------------------	-------	-------	----

《優秀作品》 7点

《佳作作品》 10点

交通安全ポスターの部

《最優秀作品》 6点 表紙・裏表紙

① 豊田市長賞	吉田 朝陽	梅坪小学校	1年
② 豊田市議会議長賞	手嶌 華菜	前林中学校	1年
③ 豊田警察署長賞	林 蒼真	中山小学校	2年
④ 足助警察署長賞	柴田 衣千花	則定小学校	5年
⑤ 豊田市教育委員会賞	柏木 菜帆	野見小学校	4年
⑥ 豊田市交通安全市民会議会長賞	丸山 葵羽	駒場小学校	6年

《優秀作品》 12点 7ページ

《佳作作品》 12点 9ページ

交通安全まんが 11ページ

※作文中に引用されるデータは、制作者本人の調査によるものです。

※作文中の表現については、原文を基本として掲載しておりますが、誤字、脱字については、事務局で修正させていただいております。

『母の経験から学ぶ』

浄水中学校 3年 前田智輝

「おーーー」次の瞬間、田の前が真っ暗になつた。騒がしい動じたる人の気配とたくさんの人の声がかい。「何だのーーー。夢かな。」と思つた瞬間、私をのぞき込む数人の顔とその間から青空が見えた。

これは私の母が高校生の時に起つた交通事故の記憶です。この話を聞いたのは、私の通つ中学校から「自転車のマナー」について各家庭で確認するもの。」と連絡が入つた日の夕食の席でした。

母が起つた交通事故は、自転車で高校へ向かつ時に起つました。車がすれ違つたのができなつ狭い道路で、こつも通り一人で走行してしまつた。すると、勢いよくトライックが母を追つ抜いたと思つた瞬間、急に止まつたのです。母は「こんなひどいで停車しなうでよ。」と思つたのです。荷物の積み下ろしか何かの都合で止まつたと思つたのです。そして母は、トライックを避けようとしてトライックの右側から出でて自転車をはじめものとしました。次の瞬間、対向車から車が走つて来るのが見えたのです。そして顔のようない、田の前が真っ暗になり、しづかに記憶がなくなりました。母は対向車のトライックに頭から突つ込まれ、そのまま跳ね飛ばされて車の前に倒れました。

私はこの話を聞いて、とても恐いしづかになりました。母は対向車が見えた瞬間から記憶がありません。これまで歩んできた自分の人生が、訳も分からず終わるかもしない瞬間だったのです。

きっと対向車のドライバーも恐いしづか瞬間だったと思つます。トライックの隣から高校生の母が急に現れて、急ブレーキを踏んでも間に合わないのです。トライックに頭から突つ込んだり、車の前に飛んでしまうのです。恐怖と絶望を感じたのではなくかと思つます。

私はこの話から、この事故が何故起きたのか、避けられなかつたのかを考えました。

「、やん、母が正常な判断がでたなひば」この日、母は大学受験を明後日に控え、連日深夜までの勉強で寝不足気味だったのです。判断力が欠けていたのです。トライックが止まつた理由の一つとして「対向車が来たのではなひか?」と想つたのです。少し待つといができたかもせん。

「、やん、トライックが母を追つ越せり、狭い道が終わるまで待つといがれたなひば」

朝の通学・通勤時間帯で、誰もが急いでいたのです。何回かの自転車と車が歩道のなつ道路を走つてはいるのですから、ねばねばして走行しているし、スマーズに走行できなじと感じてはたのかもせん。早く田の地に着きたう思ひかり、思つやうに欠けた運転になつてはた可能性があります。

「、やん、母が狭い道を通りがし学校でやたのなひば」

高校へ続く道は、この道しかなかつたのです。この道を通りがしを傳承せん。なりば、わひと慎重に行動すべきでした。

この事故で唯一救ひだつたのは、対向車が速度を落としました。こつだわ止まれる状態で通過しようとしたのです。もし、対向車が急いで通過してはいたが、やつと母は弾き飛ばされてもひじりになつてはたと思います。対向車のドライバーに感謝しかあつません。しかし、この事故で一番罪を問われたのは対向車のドライバーだつたはあだ。今でも母は申し訳なかつたと感じてはゐるのです。

もし母が、この事故で命を落としたり、今の私は存在しません。この母が自分の経験を語つてくれたといひ、私は自分の運転を真剣に見直すことにがでました。そして一層気を付けるひ思つました。

『一瞬で崩れた、当たり前の日常』

猿投農林高等学校 2年 山内結菜

十一月四日の朝、そのときの出来事は一生忘れないことはあります。

私は普段学校に自転車で通っています。しかし、その日はなぜか学校まで送つてほしいと思いました。だから、祖母に「学校まで送つてほしい」とラインを送りました。全く既読がつきました。諦めて自転車で行こうとしたとき、祖父が事故と電話がかかってきたと騒いでいました。私を乗せて学校に行く途中に車同士の事故かと思い、私の名前を何度も言つていました。私はまだ家にいたため、なんで慌てているのかわかりませんでした。祖父は私の姿を見て、少しほっとしていました。「遅刻するから学校に行きな」と言われましたが、兄が「行かなくていい」と私を止め、病院に行きました。

祖母は毎朝健康のために散歩をしていました。病気もなく、信号を赤で渡るような人ではありません。病院に着くと、母が泣いていました。私は足が骨折ぐらいで大したことないと勝手に決めつけてしましました。病室で見た祖母の姿は血だりで全身の骨が折れていきました。まだ心臓は動いていたため、医師たちは助けようとしてくれました。しかし、「命が危ない」と言われ、親戚や祖母の友人を呼びました。祖母はみんなの声を聞いて頑張つてくれました。けれど、ハイエースに五メートルも飛ばされた身体は限界を迎えて、亡くなつてしましました。

信号を守つて歩いていただけの祖母。あと数秒で渡りきれたはずでしたが間に合いませんでした。祖母の存在は見えていたのに、止まらず進んだ車を絶対に許せません。運転手は逮捕されましたが、祖母の命が奪われたという事実が変わることはありません。

前日の夜、私はテストで疲れてしまい祖母が作ったたご飯を食べません

でした。それは、祖母が作ってくれるご飯で一番好きなものでした。今までご飯を食べない日はありません。祖母に学校まで車で送つてほしいと言つたこともあります。思い返せば、偶然がじつも重なつていました。祖母がなにかを感じていたような気がします。

毎日帰りが遅くなる私に毎日ラインをしたり、帰つてくるまで外でずっと待つていて、「心配性すぎだよ」と思っていました。あの日から今日まで誰にも心配されないことに気づき、それがどれだけの愛情だったか思ひ知らされました。になくなつてから気づくことばかりです。後悔しても、もう祖母は戻つてきません。毎日が当たり前だと思わずに生きていくと思いました。

私は自転車で登校するとき、歩行者を見ずに進んでいた車を何度も見ました。私は車が止まつていると思って、進みました。すると、車が動き出しました。急ブレーキをしてくれば私は助かりました。もし気づかれていたなかつたら、私はもう生きていなかつたかもしません。私の自転車は祖母が買つてくれた自転車です。私が助かったのは祖母のおかげだと思つています。これからも車が止まつていても、信号が青でも、運転手が私を見ているか確かめてから進みたいくつしていました。車を運転している方も歩行者がいることを確認してから進んでほしいです。



『ながらスマホの危険性』

猿投農林高等学校 1年 磯 下 ひ か り

みなさんは、スマートフォンの危険性について理解してしまつか。特に今では、ながらスマホをしている人が多く、事故につながるケースが増えております。そこで今回はながらスマホによる危険性について考えました。

私は高校生になり、学校にスマートフォンを持つて歩いて貰うことがあります。歩く時間が増えました。高校入りたての頃などは登下校でスマートフォンを使用する回数が多く、前から歩いてくる人や自転車などにぶつかる、ぶつかりそうになつたり、迷惑をかけることがあります。また、音楽を聴いて歩いていると周りの音が聞こえにくく、危ないと思いました。実際に歩きスマホでの事故は年々増えており、特に十代から二十代の人が歩きスマホをしていることが分かり、登下校での事故も少なくなることが分かりました。

歩きスマホをすることで、視野が狭くなり周りが見えなくなることから、自分以外の他人も巻き込むなど危険な行為です。事故の例として、駅のホームから転落したり、赤信号に気づかず道路を渡つてしまったり、障害者などと接触し大怪我をさせてしまつことがあります。障害者の中でも視覚障害者などお互い前が見えていない状態でぶつかると、大事故にもつながる可能性があります。わりに、ひつたくりやスリ、痴漢などと犯罪に巻き込まれることもあります。事故の種類別では、「ぶつかる」が最も多く、次に「ぶつかる」、「落ちる」となっています。スマートフォンを見る際には人の邪魔にならないように移動し、使用する事が大切です。事故にあつた事がなくても、歩きスマホをした事がある人は少なくないと思うので、事故に遭つ人が少しでも減るよう心がける事

が大切です。

歩きスマホだけではなく、ながら運転も事故につながるケースが多いのです。令和六年の十一月から自転車運転中、停止している間を除いて、スマートフォンで通話したり、画面を注視したりするながらスマホが道路交通法により禁止され、罰則が強化されました。自転車にスマホを取り付けて注視する事も禁じられています。しかし、運転中に通話をしたり、地図アプリを操作しながら運転するなど危険な行為が増えています。歩きスマホと同様に自転車と衝突した場合、怪我を負うリスクが高く大事故になつたり、イヤホンを使用する事で、車のクラクションや自転車のベル、緊急車両のサイレンなどが聞こえないと、他の人にも迷惑がかかります。なので、自転車に乗る場合は、スマートフォンの電源を切るか、着信しても運転しながら使用するのではなく、安全な場所に移動してから、使用する事が大切です。

ながらスマホは自分では気づかないけど周りに迷惑をかけていて最悪の場合、関係ない人を巻き込む可能性があることが分かりました。自分の周りでも起きる可能性があるので加害者にも被害者にもならないためにも、ながらスマホは避け、事故を減らしていきたいです。



『交通事故にあわなづかるために』

済水北小学校 5年 尾 村 雪 華

みなさんは、交通事故の怖さを知っていますか。交通事故は身近で、いつ起きたらおかしくなる、時には命をいざつてしまつるようなことも怖いものですね。ニュースでも、車が信号を無視して歩行者とぶつかったり、車が歩行者を出して危なじ運転をしていて、他の車とぶつかったりしまつたり、とこつた事故をよく耳にします。そんな交通事故に少しでもあわなづかるために、私がふだんから心がけてやっている行動や意識についての事があつます。

一つ目は、横断歩道をわたる時には、しっかりと右、左、右と、左右を確かめるとこりいとです。これを意識してやつてこなすには理由があります。小さな時に、お母さんと近所のお店に買ひ物に行つた時のことです。信号が青になつてから横断歩道をわたつたところ、ものすごい勢いで左折をしてきた車とぶつかりました。その時はとても怖くて、泣き声になりました。その日、家に帰つてから、「横断歩道をわたる時はしっかりと左右を見て危なじ車などが来てこなじかを確かめてからわたる」というルールを家族と決めました。なので今も危ない運転をした車がいなか、きちんと車が止まつてくれてこなかを確かめています。

二つ目は、どんなに急いでいても危険な行動や事故を起さずリスクが高い行動は絶対にしなじとこりいとです。この行動を意識するのにも理由があります。私の家の前の道路は交通量がここまで多くなつたため、横断歩道ではなつといいで道路を横断する人たちをよく見かけます。確かに信号の所まで行ってわたるより早くと思つます。けれど、絶対安全かどうかは安全ではないため、命がなくなつてしまふかもしません。そのじやなくて

も、大けがをしてしまつかもしません。やつぱり、力がなじをしてしまつりますか、急いでいるもあからと安全な横断歩道をわたるほのがつらと思つます。なので私はいつも横断歩道をわたるようにしています。

三つ目は、横断歩道をわたる時は手を挙げていいと人がいますよ、私がこまよ、トアピールをあわいとです。大きなトワシクだつたり大きな車だと、小学生低学年、中学生の身長では車から見えなくて、そのまま進んでしまつたりするかもしだれません。しかし、手を挙げる時、頭の位置より手の位置のほうが上になつて、車からも見えるようになります。なのではあかしがりず、めんどくさがりずに、しっかりと手を挙げて、「トアリ」とこまよー、わたつてしまよー」

トアピールするところのことを意識して横断歩道をわたつてします。

私は他にも、信号からとこめつた横断歩道を急いでわたるのではなく、次に青に信号が変わると手を挙げて、夜に外出する時は光るものを身に付けたりはんしゃ板を身に付けたりと、交通事故にあわなづたため、車側に気付いてわらひたための工夫や意識、行動を常日頃からしてしまつ。このように少しの行動や意識、工夫をするだけで、交通事故にあつにくくすることができる、これが無意識にやれるようになれば、気付けば交通事故にあつにくくするためのたゞさくができます。

私は、この作文を書いて、自分の生活を少しぶり返すことができるました。自分の常日頃からしてこなす交通安全への意識などを家族や周りの人たちに教えていく、それが少しもつ広まつてしまふ、世の中の交通安全の意識が少しでも高まつて、交通事故が少しでもなくなるところなと思つます。また、これからも交通事故に少しでもあわなづかるための工夫や意識、行動などを続けてじきわら。

『お父さんへ』

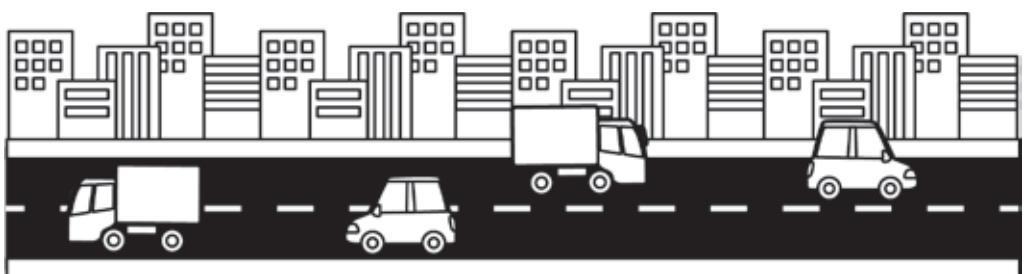
浄水北小学校 6年 土 井 慶 祐

いつもお父さんの運転を見ていたからお父さんへお手紙を書いたのです。

お父さんの運転を見ていておじいさんと思つた事は、一時停止の場所や交差など「よこ」と声を出して確認してくる事だ。

ぼく達の安全を考えて運転してくれているのが伝わります。お父さんが安全運転をしてくれるおかげでぼくは安心して試合に行けます。

ぼくも自転車に乗る時は安全に気を付けて事故にならないようにします。いつもありがとうございます。



交通安全標語の部

最優秀作品

みためより いのちをまもる ヘルメット

美山小学校 1年 北村 奏多

◎は優秀 ○は佳作

とまってくれてありがとう運動の推進

◎てをあげて うんてんしゅさんに ごあいさつ 若林西小学校 2年 大島 一真

○ピカピカピカ とまってくれてありがとう 今からわたるよ気づいてね

山之手小学校 3年 山崎 千煌

○ありがとう ペコり一つで いい気持ち 若林西小学校 6年 山崎 創平

子ども・高齢者の交通事故防止

◎反しゃ板 ピカッと知らせる いるサイン

元城小学校 4年 高野 知花

◎その一瞬 焦る心が 事故を呼ぶ

猿投農林高等学校 1年 中根 結那

○とう下校 ありさんみたいに 一れつで

寿恵野小学校 2年 安藤 聖空

○右手ピシッ 車から見える 小さな手

小清水小学校 5年 中島 秀

○青信号 それでも確認 右左！！

九久平小学校 6年 中平 心龍

自転車の安全利用促進

◎ぼくたちも 自転車のったら 運転手

野見小学校 4年 西山 宗一郎

○自転車も 心の中に めんきょしよう

井上小学校 4年 服部 澄

○ヘルメット だれでもできる ご身術

伊保小学校 3年 高氏 琴

○ながらでは 相手も自分も 守れない

若林西小学校 6年 岡田 若菜

○反射材 輝くまほうで 事故が減る

浄水北小学校 6年 三浦 宏翔

ドライバーの安全運転促進

◎ブレーキの 準びはダイヤの マークから

美山小学校 4年 鈴木 純介

○良い運転 目配り 気配り 二刀流

岩倉小学校 6年 山口 大雅

○遅刻しそう 慌てる気持ちに ブレーキを

浄水中学校 3年 永田 初樺

交通安全全般

○登下校 慣れた道こそ 危機感を

浄水中学校 2年 鈴木 愛理



優秀／加藤 心夏（広川台小2年）



優秀／中村 郁月（平和小1年）



優秀／廣瀬 汐莉（東山小3年）



優秀／都築 美友（若林東小2年）



優秀／尾崎 淑（浄水中1年）



優秀／南部 暖（伊保小6年）



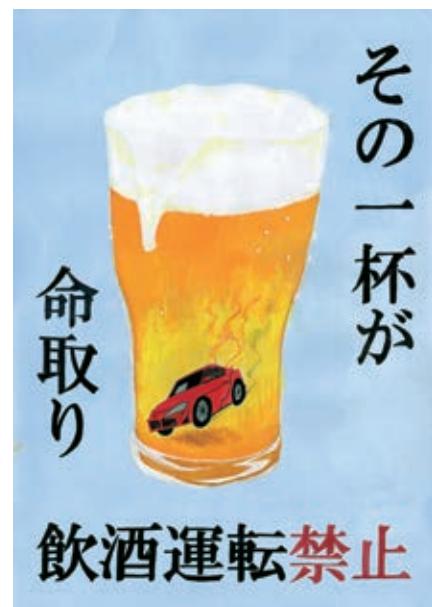
優秀／久保 綾華（井郷中3年）



優秀／梶田 純礼（浄水中2年）



優秀／手嶌 美緒（前林中3年）



優秀／実繁 和花（猿投台中3年）



優秀／松枝 幹子（一般）



優秀／服部 美葉（朝日丘中3年）



佳作／福岡 奏大（伊保小1年）



佳作／加藤 将真（浄水北小1年）



佳作／柘植 七奈（幸海小4年）



佳作／井口 紗悠（伊保小4年）



佳作／丸山 輝（駒場小4年）



佳作／平野 琴弓（伊保小4年）



佳作／平野 和輝（伊保小6年）



佳作／小寺 武琉（足助小6年）



佳作／林 久玲愛（浄水中2年）



佳作／大西 永真（浄水中2年）



佳作／中本 真人（井郷中3年）



佳作／竹丸 里咲（豊南中3年）



令和7年度 交通安全作品 応募・審査結果

交通安全作文・手紙の部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校	26	2	0	0
中学校	5	1	0	0
高校・一般	6	2	0	0
合計	37	5	0	0

交通安全標語の部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校	1,629	1	5	9
中学校	6	0	1	1
高校・一般	89	0	1	0
合計	1,724	1	7	10

交通安全ポスターの部

	応募数	最優秀	優秀	佳作
小学校	661	5	5	8
中学校	182	1	6	4
高校・一般	7	0	1	0
合計	850	6	12	12

総計（作文・手紙、標語、ポスター）

	応募数	応募学校数
小学校	2,316	50
中学校	193	16
高校・一般	102	1
合計	2,611	67





足助警察署長賞 柴田 衣千花
(則定小5年)



豊田市
教育委員会賞 柏木 菜帆
(野見小4年)



豊田市交通安全
市民会議会長賞 丸山 葵羽
(駒場小6年)

豊田市交通安全市民会議事務局
豊田市役所 交通安全防犯課内
〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60
TEL: 0565-34-6633 FAX: 0565-32-3794
HP <https://signal.toyota.aichi.jp/>

